

平成26年度 学校自己評価システムシート (県立上尾橋高等学校)

目指す学校像	地域に根ざし、生徒一人ひとりを伸ばし、自立(律)して社会を支えられる人間を育てる。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的生活習慣を確立し、規律意識を高める。 2 基礎学力の向上を図り、生徒の資質・能力を高める。 3 進路指導の充実により、生徒の自己実現を図る。 4 地域に根ざし、信頼される開かれた学校づくりを進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己目標					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒の規律意識や協調性、基本的生活習慣は改善傾向にあるが、欠如している生徒が少なからず存在している。したがって、より一層の改善に向けての方策を講じる必要がある。また日常の指導に加え、体験的活動を通して、社会の一員としての規範意識と個人の判断能力を身につけさせたい。	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を身につけさせる ○生徒の規律意識を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①家庭との連絡・連携を強化することにより、家庭と学校相互で指導できる体制にする。 ②生徒情報を共有し、受容的な指導と毅然とした指導を使い分けながら、整容指導・遅刻指導等、生活指導を強力に推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校評価懇話会・PTAからの意見等で、信頼されている評価が得られたか。 ②欠席・遅刻・早退が減少したか。また、特別生徒指導の数が減少したか。 			
2	基礎学力が十分でない生徒がまだまだ多い中で、多様な学習指導を展開する工夫や授業改善が必要である。一方では、着実に学力を向上させている生徒たちもいるので、成績上位者をさらに伸ばす取り組みが急務である。	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の定着と学習意欲を伸ばすための授業力向上。 ○資格取得の活用や補習授業など、プラスαの学力をつける教育活動の推進。 	<ol style="list-style-type: none"> ①多様な生徒のニーズに応える授業を展開する。そのための授業力向上研修も推進する。 ②チャイムtoチャイム授業の徹底で、日常授業を大切にすることを育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学習意欲の向上が授業アンケートの結果にあらわれたか。 ②チャイム始業は習慣化しているか。日常授業に取り組む姿勢は向上したか。 			
3	就職希望者の内定率100%を維持しているが、多様な生徒のニーズに応えられるような組織的取り組みがさらに必要となっている。したがって生徒自身の進路意識をより一層高めさせると同時に、自己理解の深化を図り、確実な進路決定につなげていく。	○生徒一人ひとりの希望を叶える進路指導の展開	<ol style="list-style-type: none"> ①日常の個別進路相談を丁寧に行い、進路指導部と学年で情報共有をして指導にあたる。進路資料室の整備を行い、時期にあった情報を提供できる環境を構築する。 ②校外での体験活動や見学会等を通じて社会の実情理解と自己の将来を考えさせる。 ③進路ガイダンス、進路適性検査などを利用して、自己理解を深めさせ、進路実現を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①分掌と学年の間で進路情報・生徒情報の共有はできたか。適切な進路指導に生かされたか。生徒や保護者に進路情報を積極的に発信できたか。 ②各種体験活動等を進路指導に生かすことができたか。 ③進路ガイダンス等を通じ生徒に適切に指導できたか。就職や進学の実現できたか。 			
4	学校通信「橋」の地元自治会への回覧を実施。生徒の活躍ぶりがよく分かる好評であった。そこで中学校・地域・保護者に本校生徒の学校生活の活躍ぶりが、よりはっきりわかるような広報活動を定期的に続ける必要がある。また生徒の対外的な活動をより組織化し、学校全体の取り組みに位置づけると同時に、保護者と連携して学校行事の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の成長が伝わるようなきめ細かい広報活動 ○学校外での生徒の活動の組織化と保護者からの積極的な協力体制の確立 	<ol style="list-style-type: none"> ①「部活動通信」「橋トピックス」を統合し、生徒の活躍を伝えやすくする。 ②防災マニュアルも含め、緊急時の対応が迅速かつ的確にできるよう組織化する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①「部活動通信」「橋トピックス」を統合したものを7回以上作成し、配布できたか。 ②日常的な情報発信や緊急時の対応は十分か。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ①就労体験活動、ボランティア、交流事業を継続できるように組織整備をする。 ②保護者が学校行事に参加する機会を増やし、またPTAとして学校行事に協力していただける人数を増やす。 	<ol style="list-style-type: none"> ①就労体験、東北ボランティア、異校種間交流事業等の推進組織を整備することができたか。 ②PTAの活動として、交通安全活動や授業公開への参加人数が増えたか。体育祭文化祭等の行事参加や協力をしていただける方々の人数が増えたか。 				

学校関係者からの意見・要望・評価等